



Red Hat CodeReady Studio 12.19

インストールガイド

Red Hat CodeReady Studio のインストール

Red Hat CodeReady Studio 12.19 インストールガイド

Red Hat CodeReady Studio のインストール

Eva-Lotte Gebhardt
egebhard@redhat.com

Levi Valeeva
levi@redhat.com

Yana Hontyk
yhontyk@redhat.com

法律上の通知

Copyright © 2021 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

本書では、Red Hat CodeReady Studio のインストール、アップグレード、およびアンインストールのプロセスについて説明します。

目次

| | |
|---|----|
| 多様性を受け入れるオープンソースの強化 | 3 |
| 第1章 最小要件 | 4 |
| 第2章 OPENJDK のインストール | 5 |
| 2.1. WINDOWS での OPENJDK のインストール | 5 |
| 2.1.1. その他のリソース | 5 |
| 2.2. RHEL での OPENJDK のインストール | 5 |
| 2.2.1. その他のリソース | 6 |
| 第3章 CODEREADY STUDIO のインストール | 7 |
| 3.1. ECLIPSE での CODEREADY STUDIO のインストール | 7 |
| 3.1.1. Eclipse での CodeReady Studio のインストール (オンライン時) | 7 |
| 3.1.2. Eclipse での CodeReady Studio のインストール (オフライン時) | 10 |
| 3.2. インストーラーを使用した CODEREADY STUDIO スタンドアロンのインストール | 12 |
| 3.3. 高度なインストールタスクの実行 | 13 |
| 3.3.1. スクリプトを使用した Red Hat CodeReady Studio のインストール | 13 |
| 3.3.2. CodeReady Studio スタンドアロンインストーラーをソースからビルド | 14 |
| 第4章 CODEREADY STUDIO のアップグレード | 15 |
| 4.1. CODEREADY STUDIO のメジャーバージョンのアップグレード | 15 |
| 4.2. RED HAT CODEREADY STUDIO のマイナーバージョンの更新 | 16 |
| 第5章 CODEREADY STUDIO のアンインストール | 19 |
| 5.1. ECLIPSE を使用した RED HAT CODEREADY STUDIO のアンインストール | 19 |
| 5.2. インストーラーを使用した CODEREADY STUDIO のアンインストール | 21 |
| 第6章 問題の報告 | 22 |

多様性を受け入れるオープンソースの強化

Red Hat では、コード、ドキュメント、Web プロパティにおける配慮に欠ける用語の置き換えに取り組んでいます。まずは、マスター (master)、スレーブ (slave)、ブラックリスト (blacklist)、ホワイトリスト (whitelist) の 4 つの用語の置き換えから始めます。この取り組みは膨大な作業を要するため、今後の複数のリリースで段階的に用語の置き換えを実施して参ります。詳細は、[弊社](#) の CTO、Chris Wright の [メッセージ](#) を参照してください。

第1章 最小要件

CodeReady Studio 12.19 は、さまざまなオペレーティングシステム、アーキテクチャー、および Java Development Kit の組み合わせと互換性があります。互換性の完全リストは「[Red Hat Fuse でサポートされる構成](#)」および「[コンポーネント](#)」を参照してください。

ハードウェア要件

- 2 GB の RAM
 - 4 GB の RAM の使用を **強く** 推奨します。
- 2 GB のハードディスク容量

ソフトウェア要件

- OpenJDK がインストールされている。
 - Red Hat OpenJDK の使用を **強く** 推奨します。

オペレーティングシステムの要件

- For Linux (x86_64)
 - Red Hat Enterprise Linux 7 または 8
 - Fedora 31 または 32
 - Ubuntu 20.04 LTS または 19.10
- Windows(x86_64)
 - Microsoft Windows 8 または 10
- MacOS(x86_64)
 - Catalina (10.15) または Mojave (10.14)



注記

Windows で、すべてのユーザーが CodeReady Studio インスタンスを利用できるようにするには、すべてのユーザーがアクセスできるフォルダー (**C:\codereadystudio**) にインストールします。指定のユーザーがこのメインのインストールフォルダーに書き込みできない場合は、新たにインストールされた機能や更新はそのユーザーのホームディレクトリ内に保存されます。

第2章 OPENJDK のインストール

ここでは、Microsoft Windows および Red Hat Enterprise Linux (RHEL) に OpenJDK をインストールする方法を説明します。

2.1. WINDOWS での OPENJDK のインストール

MSI ベースのインストーラーを使用して OpenJDK 11 を Windows にインストールする方法を説明します。

手順

1. [Red Hat Developer Portal](#) から MSI ベースのインストーラーをダウンロードします。
2. インストーラーを実行し、画面のインストール手順にしたがいます。
3. 「[Working with Java Runtime Environments](#)」の手順にしたがって、CodeReady Studio が OpenJDK を使用するよう設定します。

2.1.1. その他のリソース

- OpenJDK 11 のインストール方法の詳細は、『[Installing and Using OpenJDK 11 for Windows](#)』を参照してください。

2.2. RHEL での OPENJDK のインストール

RHEL に OpenJDK 11 をインストールする方法を説明します。

前提条件

- **Root** 権限が必要です。
- サブスクリプションがアタッチされた登録済みのシステム。
詳細は、『[システム登録およびサブスクリプション管理](#)』を参照してください。

手順

- OpenJDK RPM をインストールするには、以下のコマンドを実行します。

```
# yum install java-11-openjdk-devel
```

任意で、`java-11-openjdk-src` および `java-11-openjdk-demo` パッケージをインストールできます。`Java-11-openjdk-src` パッケージには、IDE インデクサーおよびデバッガーと使用できる OpenJDK 11 クラスライブラリーのソースコードがすべて含まれています。`java-11-openjdk-demo` パッケージには、OpenJDK の Java ランタイム (デモおよび例) が含まれます。

- `java-11-openjdk-demo` および `java-11-openjdk-src` をインストールするには、以下を実行します。

```
# yum install java-11-openjdk-src java-11-openjdk-demo
```

トラブルシューティング

OpenShift クラスターへのログイン試行時に以下のエラーメッセージが発生した場合は、Java が TLSv1.2 を使用するように設定します。この問題は、Java 11.0.7 および OpenShift クラスター 4.4.0 以降よりも前の Java JDK バージョンでのみ発生します。

Unable to execute request to request url https://<openshift-cluster-oauth-authorization-server>

- TLSv1.2 を使用するよう Java を設定するには、以下を行います。
 1. CodeReady Studio インストールディレクトリー内の **studio** ディレクトリーにある **codereadystudio.ini** ファイルを開きます。
 2. **-vmargs** セクションに以下の行を追加します。

```
`-Djdk.tls.client.protocols=TLSv1.2`
```

2.2.1. その他のリソース

- RHEL8 に並行してインストールされた 2 つの OpenJDK メジャーバージョンのインストール方法、実行方法、切り替え方法は、「[How to install Java 8 and 11 on Red Hat Enterprise Linux 8](#)」を参照してください。

第3章 CODEREADY STUDIO のインストール

本章では、CodeReady Studio のインストール方法を説明します。

- [Eclipse を使用したインストール](#)
- [インストーラーを使用したインストール](#)
- [スクリプトを使用したインストール](#)
- [ソースからのインストール](#)

複数のバージョンの CodeReady Studio が異なるディレクトリーにあれば、インストーラーまたは Eclipse を使用して複数のバージョンの CodeReady Studio をシステムにインストールできます。

3.1. ECLIPSE での CODEREADY STUDIO のインストール

Eclipse 用の CodeReady Studio は、既存の Eclipse インスタンスの CodeReady Studio プラグインをパッケージ化します。

オンラインの状態であれば、Eclipse Marketplace から CodeReady Studio をインストールできます。このインストール方法は、BYOE (Bring Your Own Eclipse) と呼ばれています。

オフラインの場合は、**Update Site Zip** を使用して CodeReady Studio をインストールできます。

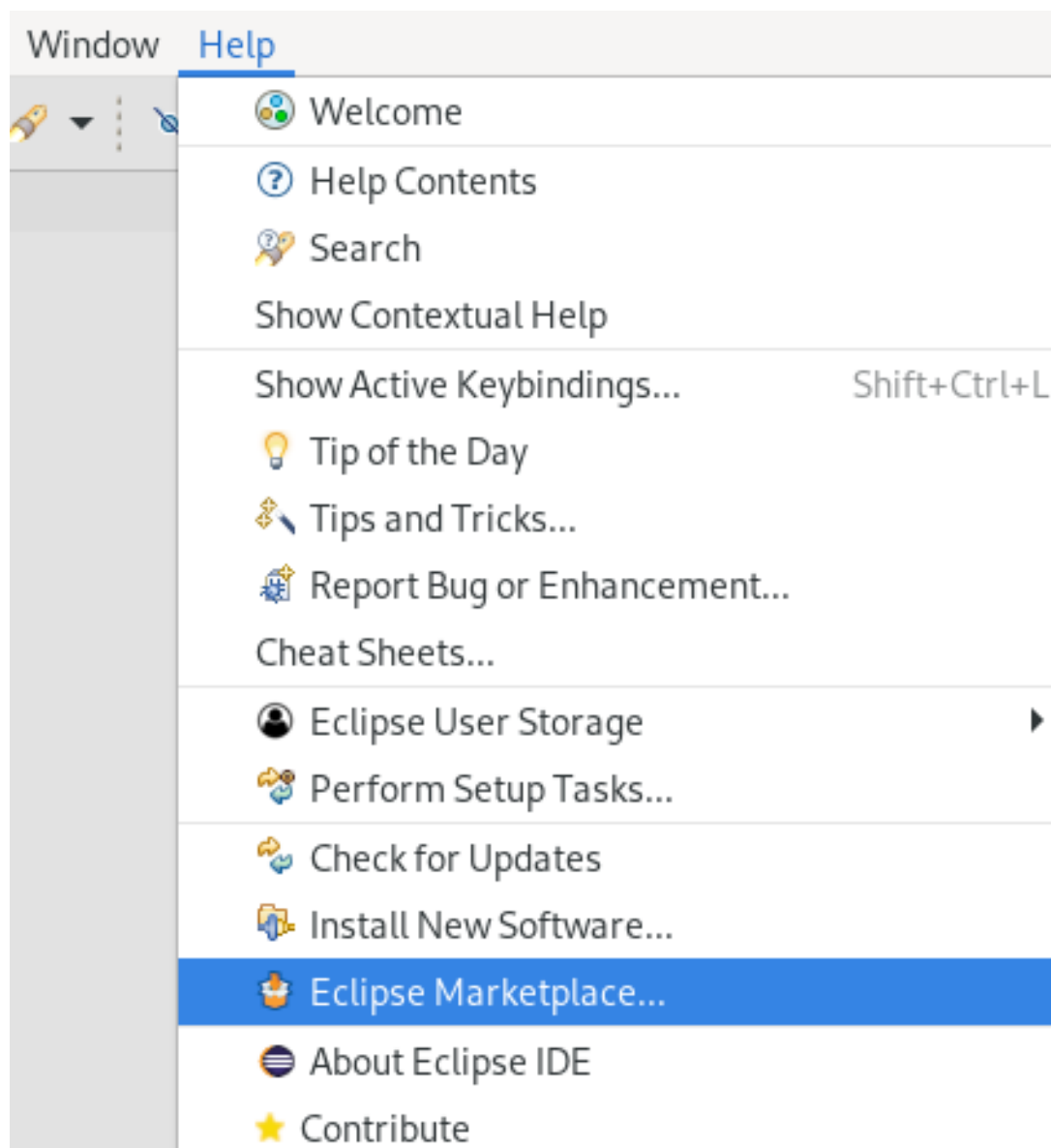
次に、オンラインまたはオフラインの場合に CodeReady Studio をインストールする方法を説明します。

3.1.1. Eclipse での CodeReady Studio のインストール (オンライン時)

Eclipse Marketplace から CodeReady Studio BYOE をインストールする方法を説明します。

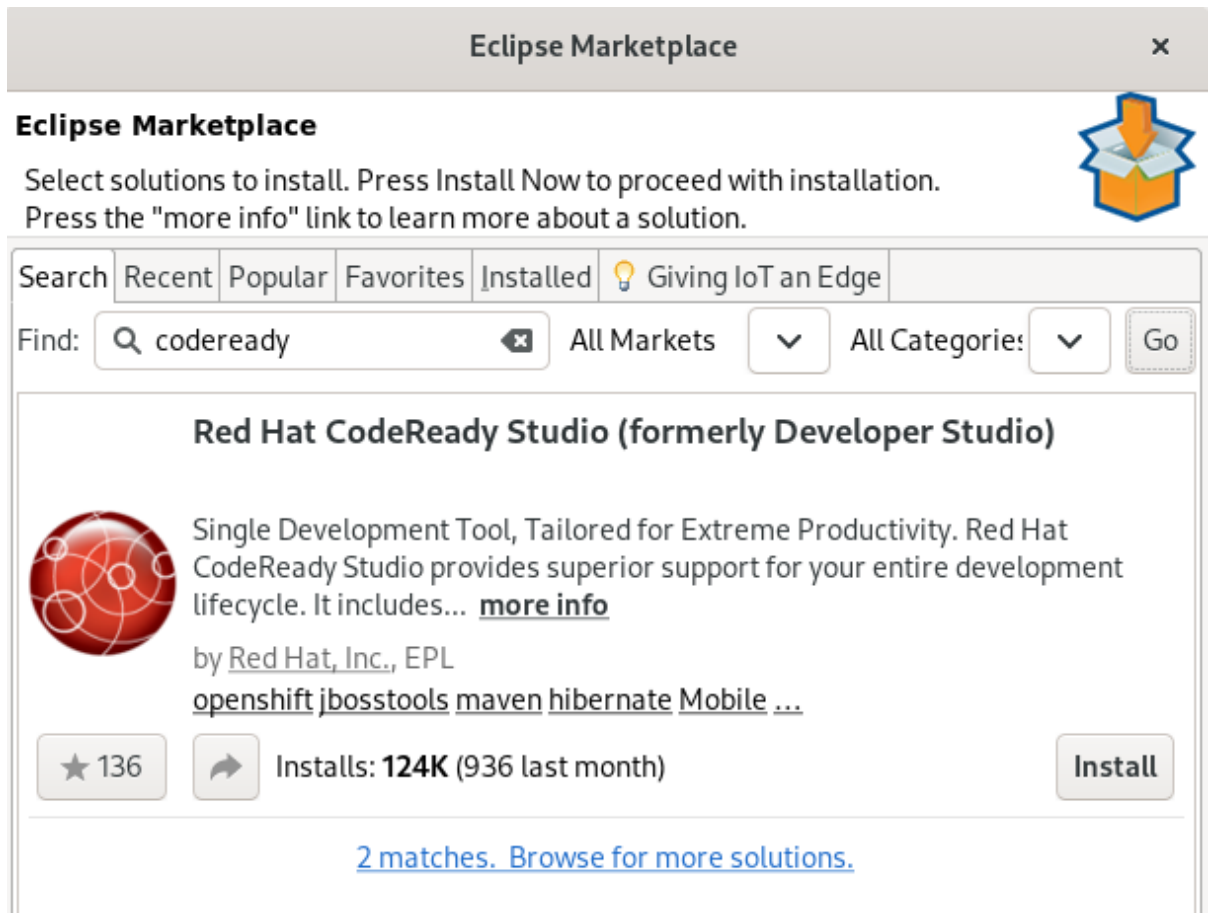
手順

1. Eclipse IDE を起動します。
2. **Help** → **Eclipse Marketplace** をクリックします。



Eclipse Marketplace ウィンドウが表示されます。

3. Locate Red Hat CodeReady Studio 12.19 GA

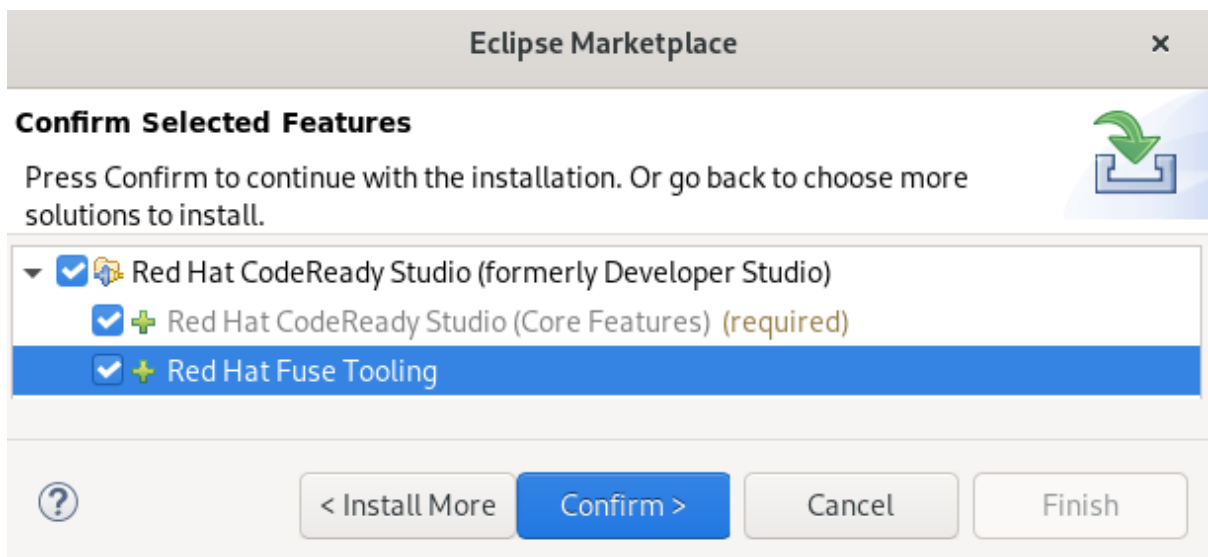


4. **Install** をクリックします。
5. 画面の手順にしたがってインストールを完了します。



重要

インストールする追加機能を選択するプロンプトが表示されたら、インテグレーションアプリケーションの作成、テスト、およびデバッグを行う **Fuse Tooling** 機能を選択します。



署名なしコンテンツのインストールに関する警告を受け取った場合は、コンテンツの詳細を確認し、問題がなければ **Install Anyway** をクリックしてインストールを続行します。

6. Eclipse を再起動します。

Eclipse IDE を再起動するよう要求されたら、**Restart Now** をクリックします。Eclipse を再起動するまで変更は反映されないため、注意してください。

3.1.2. Eclipse での CodeReady Studio のインストール (オフライン時)

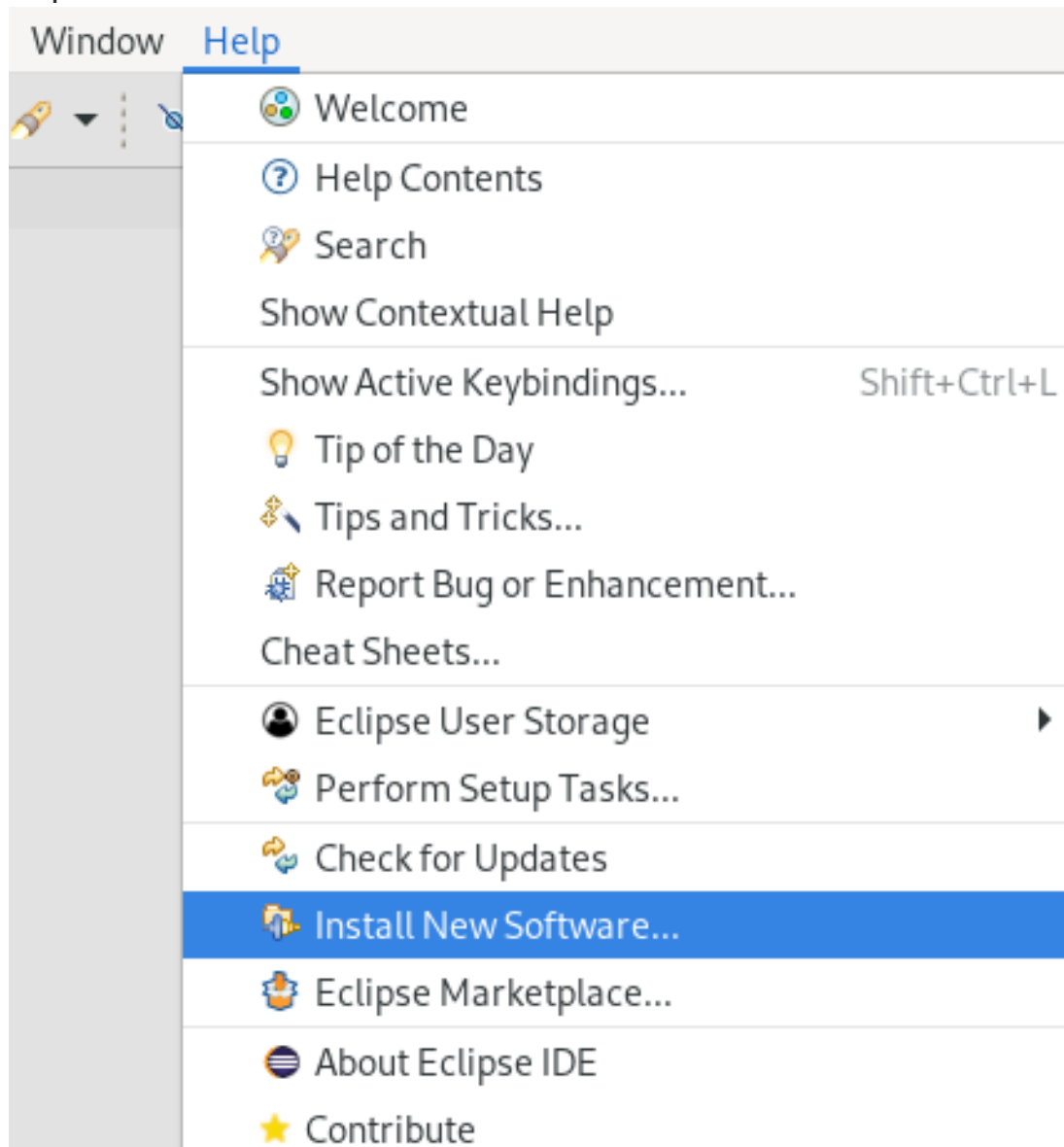
ここでは、**Update Site Zip** で CodeReady Studio をインストールする方法を説明します。

前提条件

- Red Hat [Developer Portal](#) から Red Hat CodeReady Studio 12.19 Update Site Zip をダウンロードします。

手順

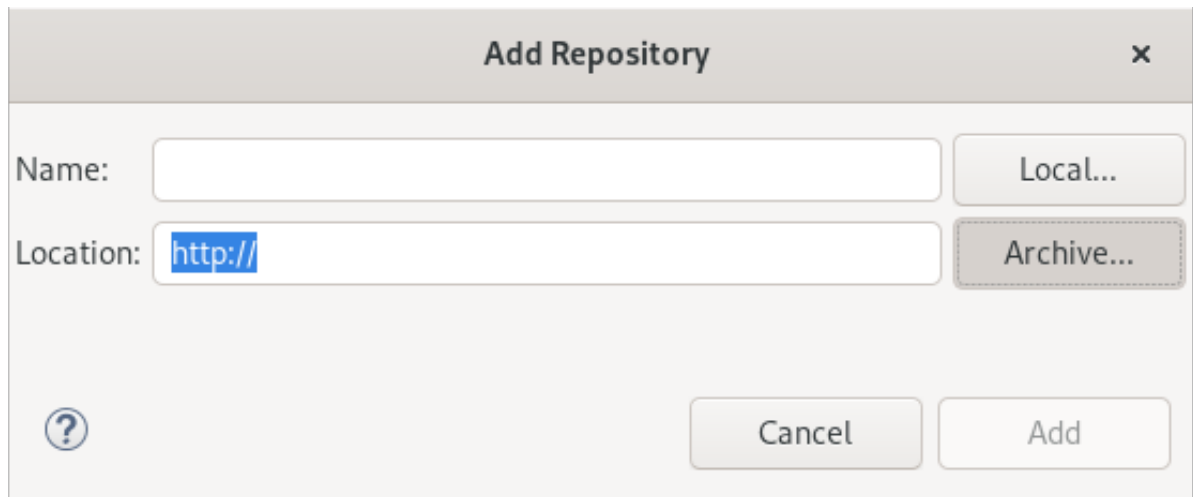
1. Eclipse IDE を起動します。
2. Help → Install New Software をクリックします。



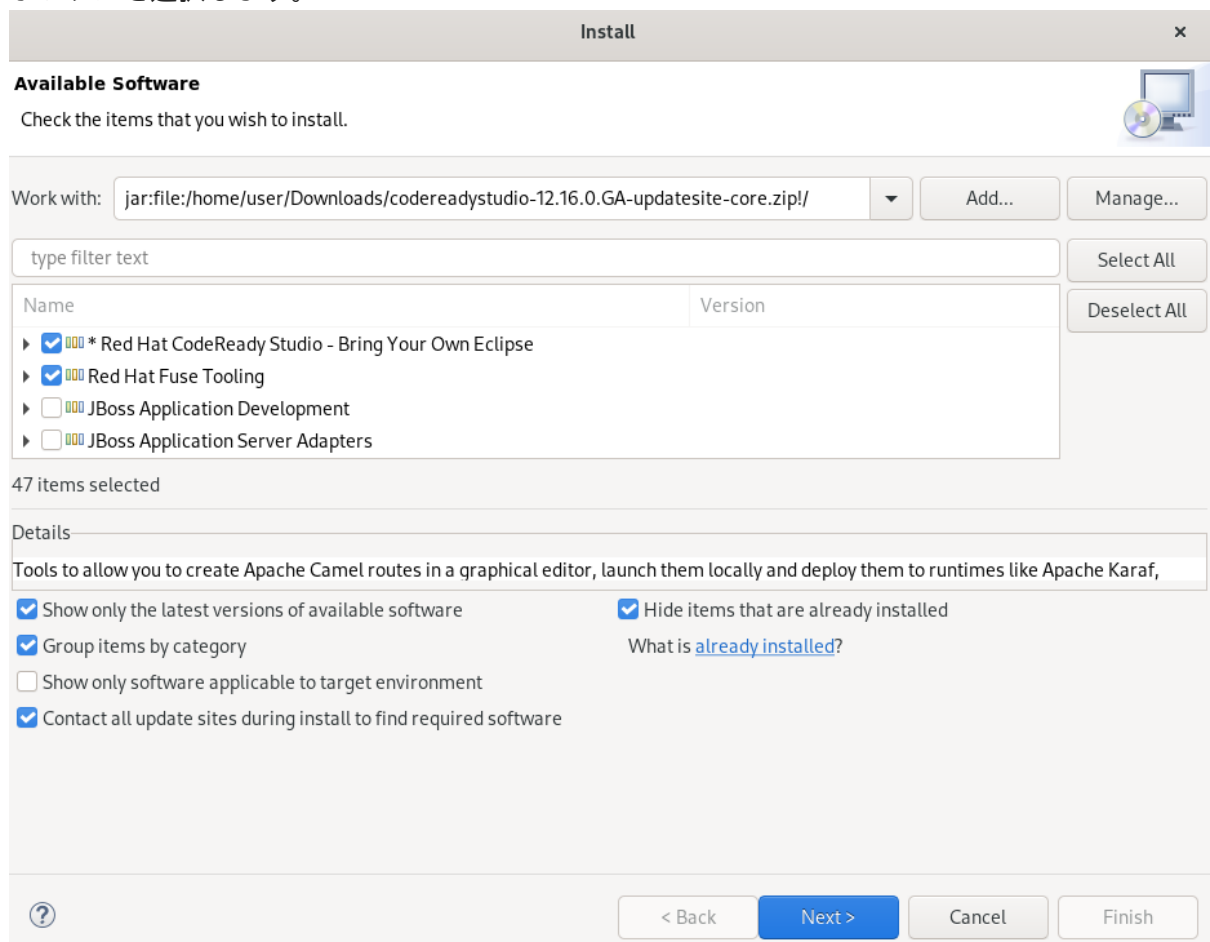
Available Software ウィンドウが表示されます。

3. **Add** をクリックします。

Add Repository ウィンドウが表示されます。



4. **Archive** をクリックし、**Update Site Zip** ファイルを見つけます。
5. **Add** をクリックします。
6. **Red Hat CodeReady Studio - Bring Your Own Eclipse** および **Red Hat Fuse Tooling** チェックボックスを選択します。



7. **Next** をクリックします。
8. 画面の手順にしたがってインストールを完了します。
署名なしコンテンツのインストールに関する警告を受け取った場合は、コンテンツの詳細を確認し、問題がなければ **Install Anyway** をクリックしてインストールを続行します。

9. Eclipse を再起動します。

Eclipse IDE を再起動するよう要求されたら、**Restart Now** をクリックします。Eclipse を再起動するまで変更は反映されないため、注意してください。

3.2. インストーラーを使用した CODEREADY STUDIO スタンドアロンのインストール

インストーラーには、Eclipse の CodeReady Studio プラグインや依存するサードパーティープラグインをパッケージ化する CodeReady Studio スタンドアロンが含まれます。インストーラーはすべてのオペレーティングシステムと互換性があり、Red Hat カスタマーポータルなどの複数のソースから入手できます。

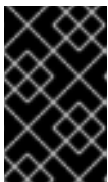
ここでは、インストーラーを使用して CodeReady Studio をインストールする方法を説明します。

手順

1. Red Hat [Developer Portal](#) から Red Hat CodeReady Studio 12.19 Installerをダウンロードします。
2. ダウンロードした **codereadystudio-12.19.0.GA-installer-standalone.jar** ファイルが含まれるディレクトリーに移動します。
3. インストーラーを起動します。

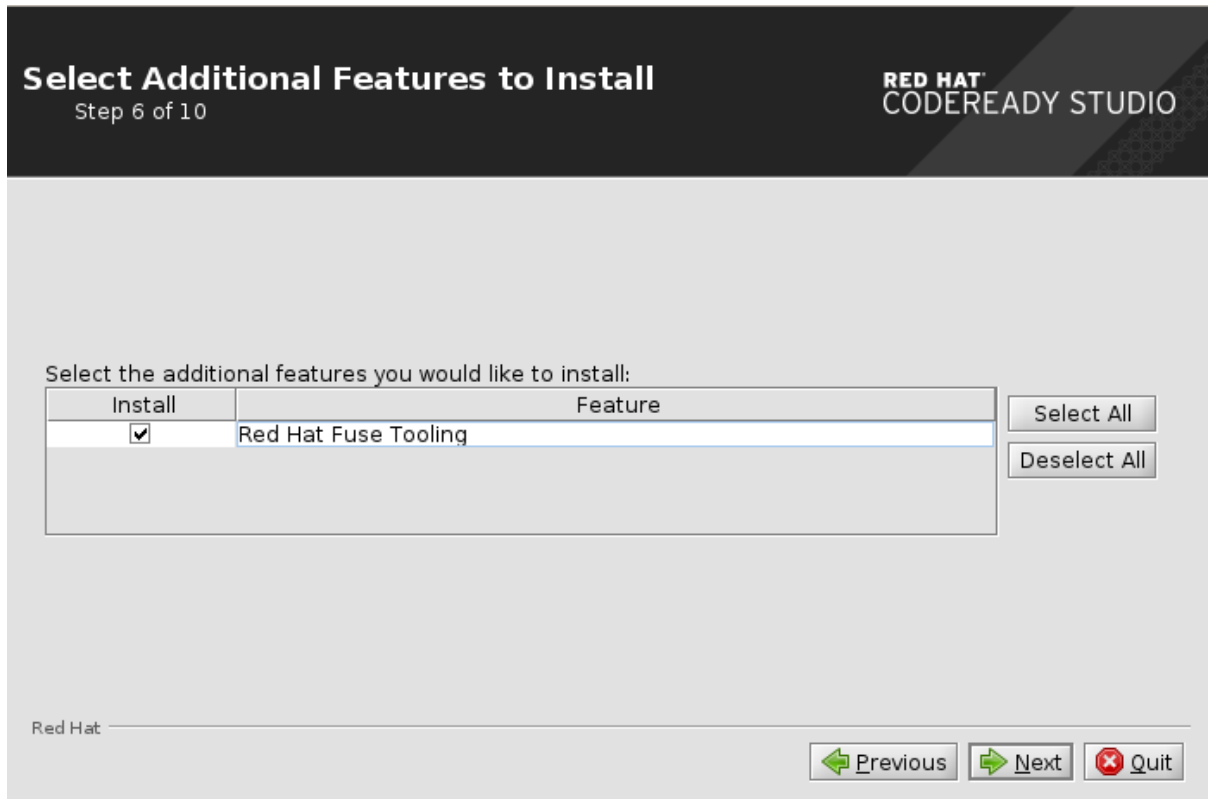
```
$ java -jar codereadystudio-12.19.0.GA-installer-standalone.jar
```

4. 画面の手順にしたがってインストールを完了します。



重要

インストールする追加機能を選択するプロンプトが表示されたら、インテグレーションアプリケーションの作成、テスト、およびデバッグを行う **Fuse Tooling** 機能を選択します。



3.3. 高度なインストールタスクの実行

次に、スクリプトを使用して CodeReady Studio をインストールする方法と、ソースコードから Red Hat CodeReady Studio インストーラーをビルドする方法を説明します。

3.3.1. スクリプトを使用した Red Hat CodeReady Studio のインストール

次に、スクリプトを使用して CodeReady Studio をインストールする方法を説明します。

手順

1. Red Hat [Developer Portal](#) から Red Hat CodeReady Studio 12.19 Installer をダウンロードします。
2. ダウンロードした `codereadystudio-12.19.0.GA-installer-standalone.jar` ファイルが含まれるディレクトリに移動します。
3. インストーラーを起動します。

```
$ java -jar codereadystudio-12.19.0.GA-installer-standalone.jar
```

4. 画面の手順にしたがってインストールを完了します。



重要

インストールする追加機能を選択するプロンプトが表示されたら、インテグレーションアプリケーションの作成、テスト、およびデバッグを行う **Fuse Tooling** 機能を選択します。

インストールが完了すると、CodeReady Studio インストールディレクトリに `InstallConfigRecord.xml` ファイルが生成されます。

5. 以下のコマンドを実行します。

```
$ java -jar codereadystudio-12.19.0.GA-installer-standalone.jar \  
/path-to/InstallConfigRecord.xml
```

6. `path-to` を `InstallConfigRecord.xml` ファイルへのパスに置き換えます。



注記

生成された `InstallConfigRecord.xml` ファイルはマシン固有で、Java Development Kit (JDK) およびシステムのインストールパスを使用します。他のオペレーティングシステム、JDK、またはパスに `InstallConfigRecord.xml` ファイルを使用するには、このファイルを手作業で変更する必要があります。

3.3.2. CodeReady Studio スタンドアロンインストーラーをソースからビルド

CodeReady Studio スタンドアロンインストーラーをソースからビルドする方法を説明します。

前提条件

- Maven 3.3 以降と Java 11 がインストールされている必要があります。Maven を取得および設定するには、「[Apache Maven Project](#)」を参照してください。

手順

1. CodeReady Studio Git リポジトリのクローンを作成します。

```
$ git clone https://github.com/jbdevstudio/jbdevstudio-product.git
```

2. `jbdevstudio-product` ディレクトリーに移動します。

```
$ cd jbdevstudio-product
```

3. `master` にチェックアウトします。

```
$ git checkout master
```

4. `README.adoc` ファイルの手順にしたがいます。

ビルドが完了すると、CodeReady Studio スタンドアロンインストーラーの `.jar` ファイルは `/jbdevstudio-product/installer/target` ディレクトリーに配置されます。

第4章 CODEREADY STUDIO のアップグレード

CodeReady Studio のバージョンを最新のメジャーおよびマイナーバージョンにアップグレードする可能性について説明します。

4.1. CODEREADY STUDIO のメジャーバージョンのアップグレード

CodeReady Studio の各メジャーバージョンは、異なるバージョンの Eclipse をベースにしています。そのため、古いメジャーバージョンの CodeReady Studio を、新しいメジャーバージョンにアップグレードすることはできません。たとえば、CodeReady Studio 10.x インストールを 11.x に更新することはできません。ただし、CodeReady Studio 12.x で CodeReady Studio 11.x を使用して作成したワークスペースを使用することは可能です。

複数のバージョンの CodeReady Studio が異なるディレクトリーにあれば、インストーラーまたは Eclipse を使用して複数のバージョンの CodeReady Studio をシステムにインストールできます。

以下の表は、各メジャーバージョンの Red Hat CodeReady Studio でサポートされる Eclipse のバージョンを示しています。

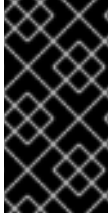
表4.1 Eclipse バージョンサポート一覧

| Red Hat CodeReady Studio のバージョン | ベースの Eclipse バージョン |
|---------------------------------|---------------------------|
| CodeReady Studio 12.19 | Eclipse IDE 2021-03 |
| CodeReady Studio 12.18 | Eclipse IDE 2020-09 |
| CodeReady Studio 12.17 | Eclipse IDE 2020-09 |
| CodeReady Studio 12.16 | Eclipse IDE 2020-06 |
| CodeReady Studio 12.15 | Eclipse IDE 2020-03 |
| CodeReady Studio 12.14 | Eclipse IDE 2019-12 |
| CodeReady Studio 12.13 | Eclipse IDE 2019-09 |
| CodeReady Studio 12.11 | Eclipse SimRel 2019-03 GA |
| CodeReady Studio 12.9 | Eclipse SimRel 2018-09 GA |
| CodeReady Studio 12.0 | Eclipse 4.8 (Photon) |
| CodeReady Studio 11.x | Eclipse 4.7 (Oxygen) |
| Red Hat CodeReady Studio 10.x | Eclipse 4.6 (Neon) |
| Red Hat CodeReady Studio 9.x | Eclipse 4.5 (Mars) |

4.2. RED HAT CODEREADY STUDIO のマイナーバージョンの更新

Red Hat CodeReady Studio を、メジャーリリースの最新のマイナーバージョンに更新することができます。たとえば、Red Hat CodeReady Studio 12.0 インストールを 12.9 に更新できます。

自動更新の IDE 設定によっては、最新の Red Hat CodeReady Studio の更新が利用できるようになったときに IDE によって自動的に通知されます。

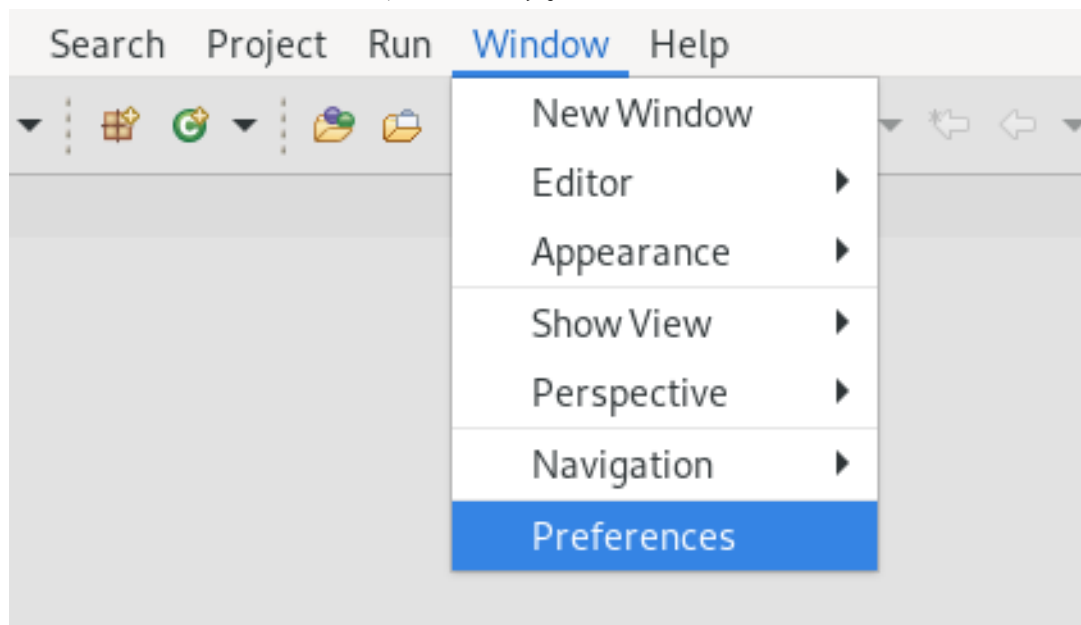


重要

更新する前にワークスペースをバックアップします。ワークスペースには、プロジェクトファイルの他に、カスタマイズされた設定に関するメタデータや、IDE の設定が含まれます。ワークスペースをバックアップするには、ワークスペースディレクトリーをバックアップする場所にコピーするか、圧縮ファイルとして保存します。

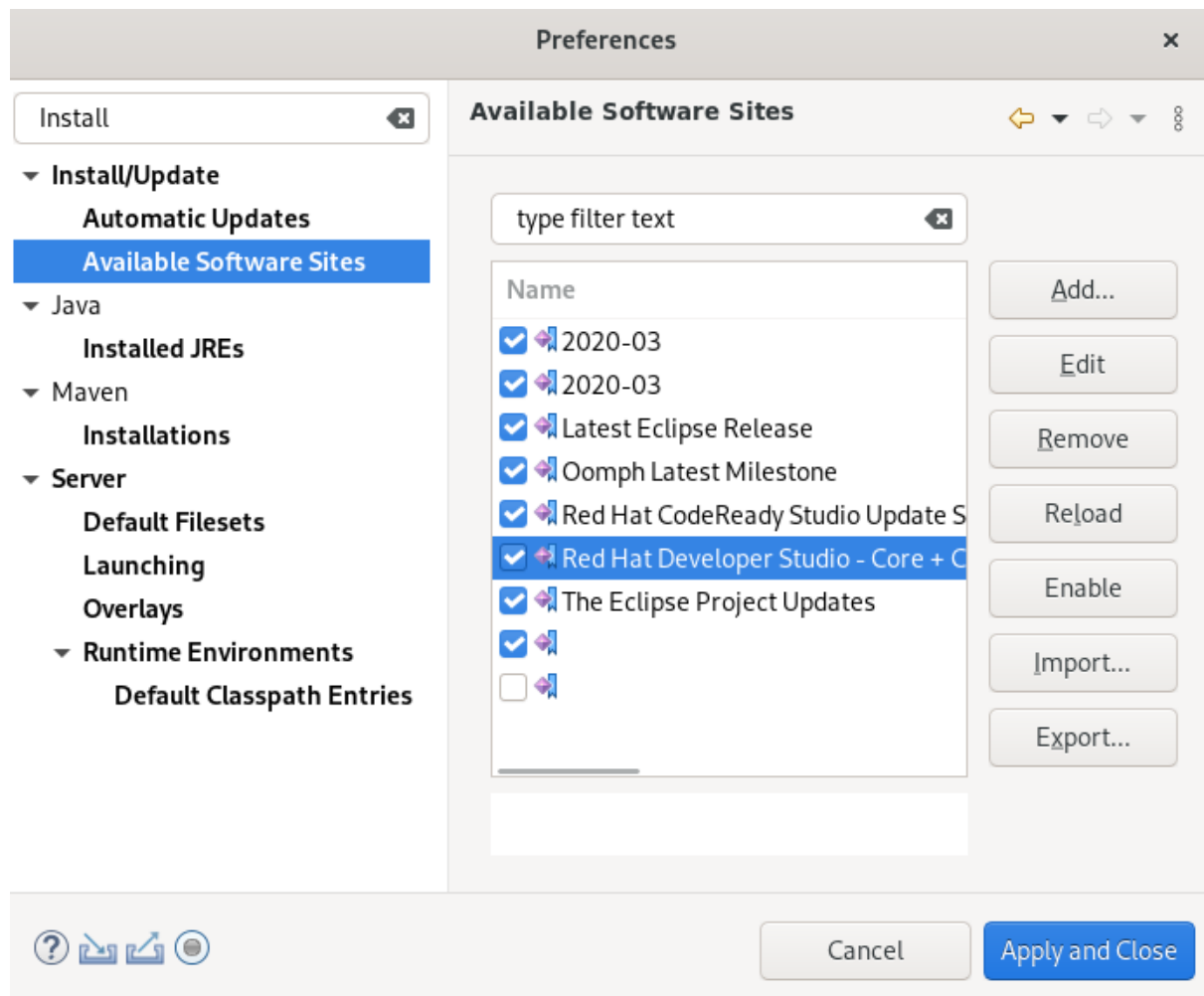
手順

1. Eclipse IDE を起動します。
2. **Window** → **Preferences** をクリックします。

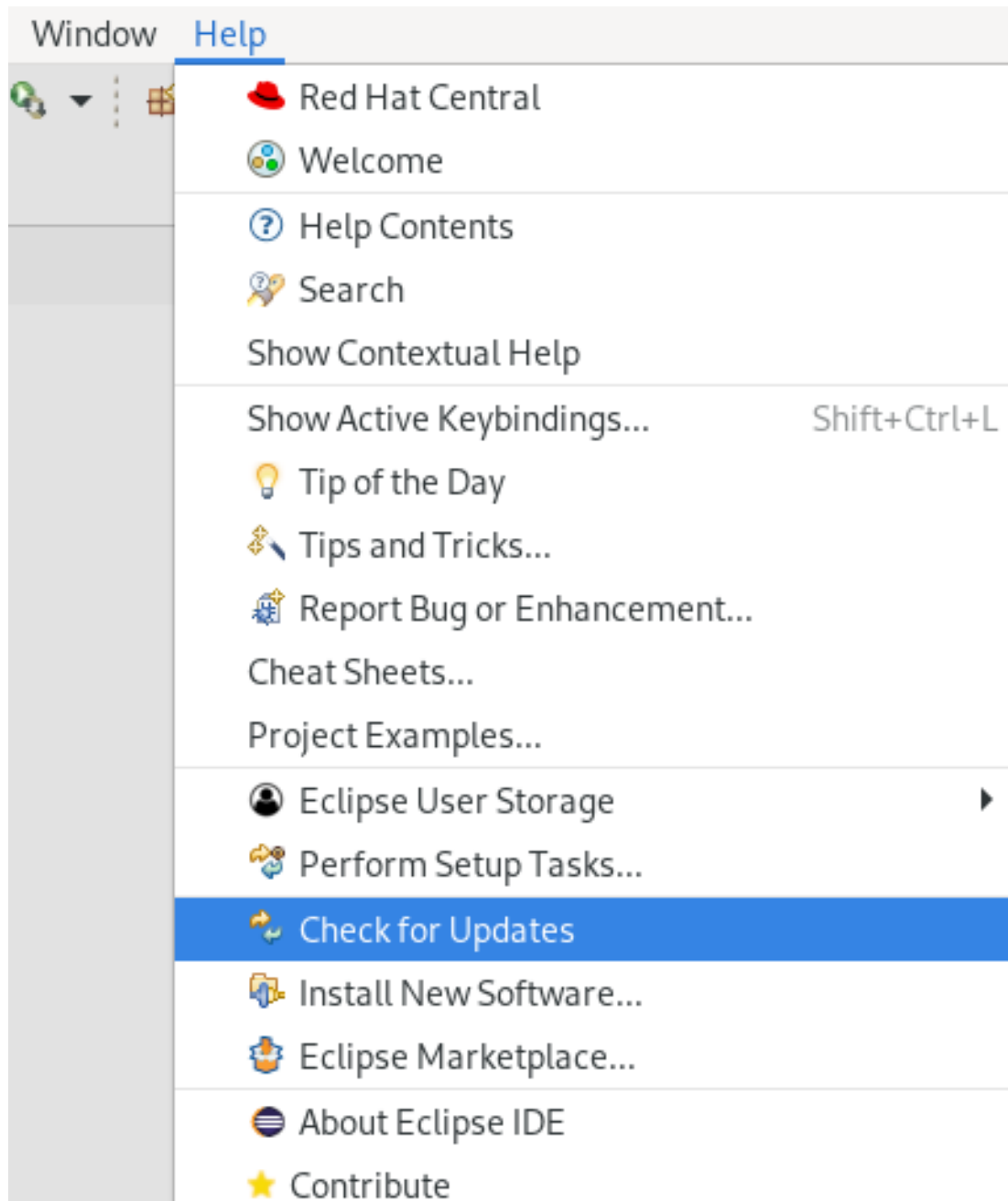


Preferences ウィンドウが表示されます。

3. **Install/Update** → **Available Software Sites** を選択します。



4. URL <https://devstudio.redhat.com/12/stable/updates/> が有効な場所に表示されていることを確認します。一覧にない場合は追加します。
5. **Apply and Close** をクリックします。
6. **Help** → **Check for Updates** をクリックします。



更新の検索には時間がかかる場合があります。

7. 画面の指示に従って、利用可能な更新を適用します。
署名なしコンテンツのインストールに関する警告を受け取った場合は、コンテンツの詳細を確認し、問題がなければ **Install Anyway** をクリックしてインストールを続行します。
8. Eclipse を再起動します。
Eclipse IDE を再起動するよう要求されたら、**Restart Now** をクリックします。Eclipse を再起動するまで変更は反映されないため、注意してください。

第5章 CODEREADY STUDIO のアンインストール

Eclipse またはインストーラーを使用して CodeReady Studio をアンインストールする方法を説明します。

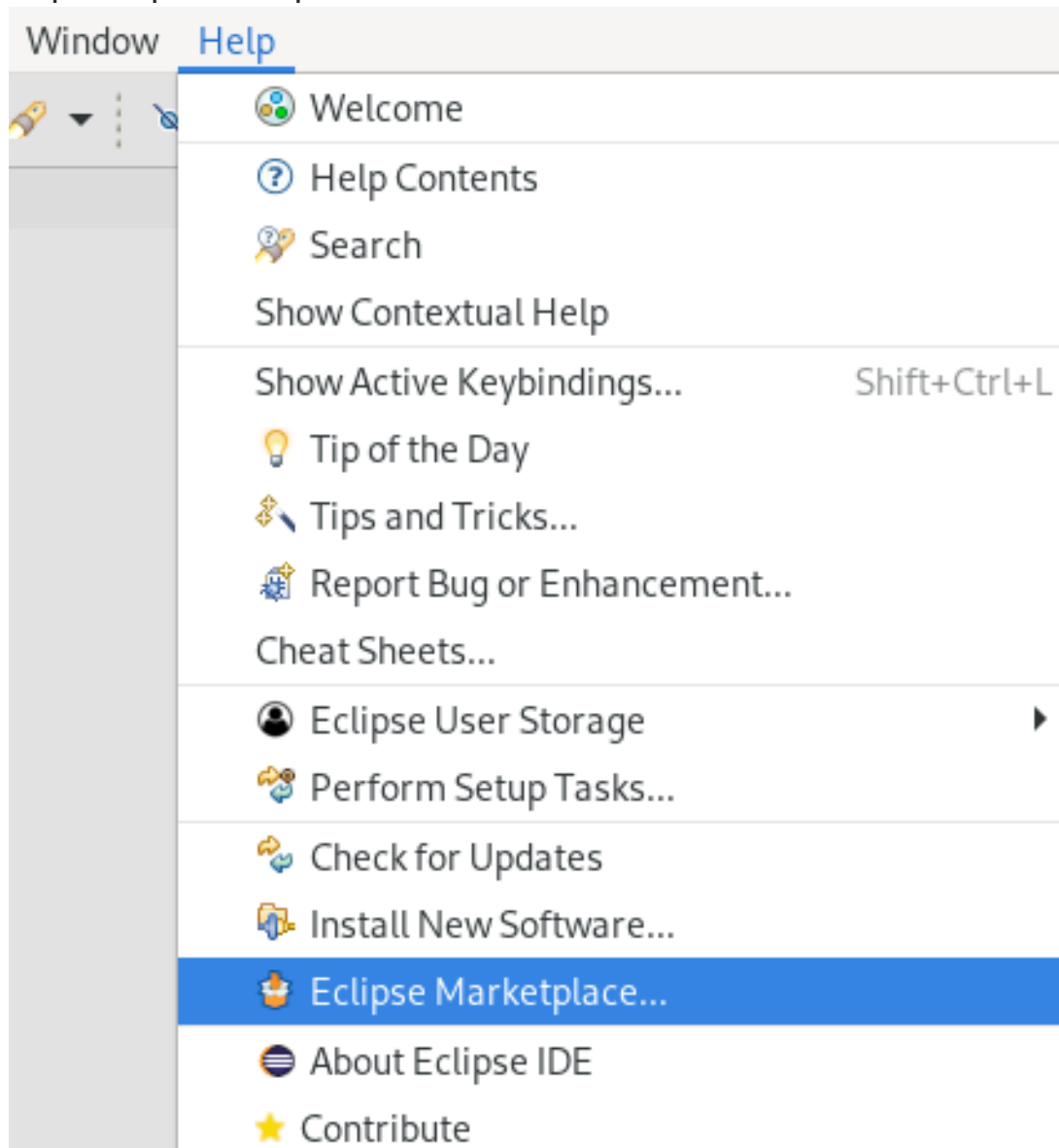
複数のバージョンの CodeReady Studio が異なるディレクトリーにあれば、複数のバージョンの CodeReady Studio をシステムにインストールできます。

5.1. ECLIPSE を使用した RED HAT CODEREADY STUDIO のアンインストール

Eclipse Marketplace または **Update Site Zip** でインストールされた CodeReady Studio のアンインストール方法を説明します。

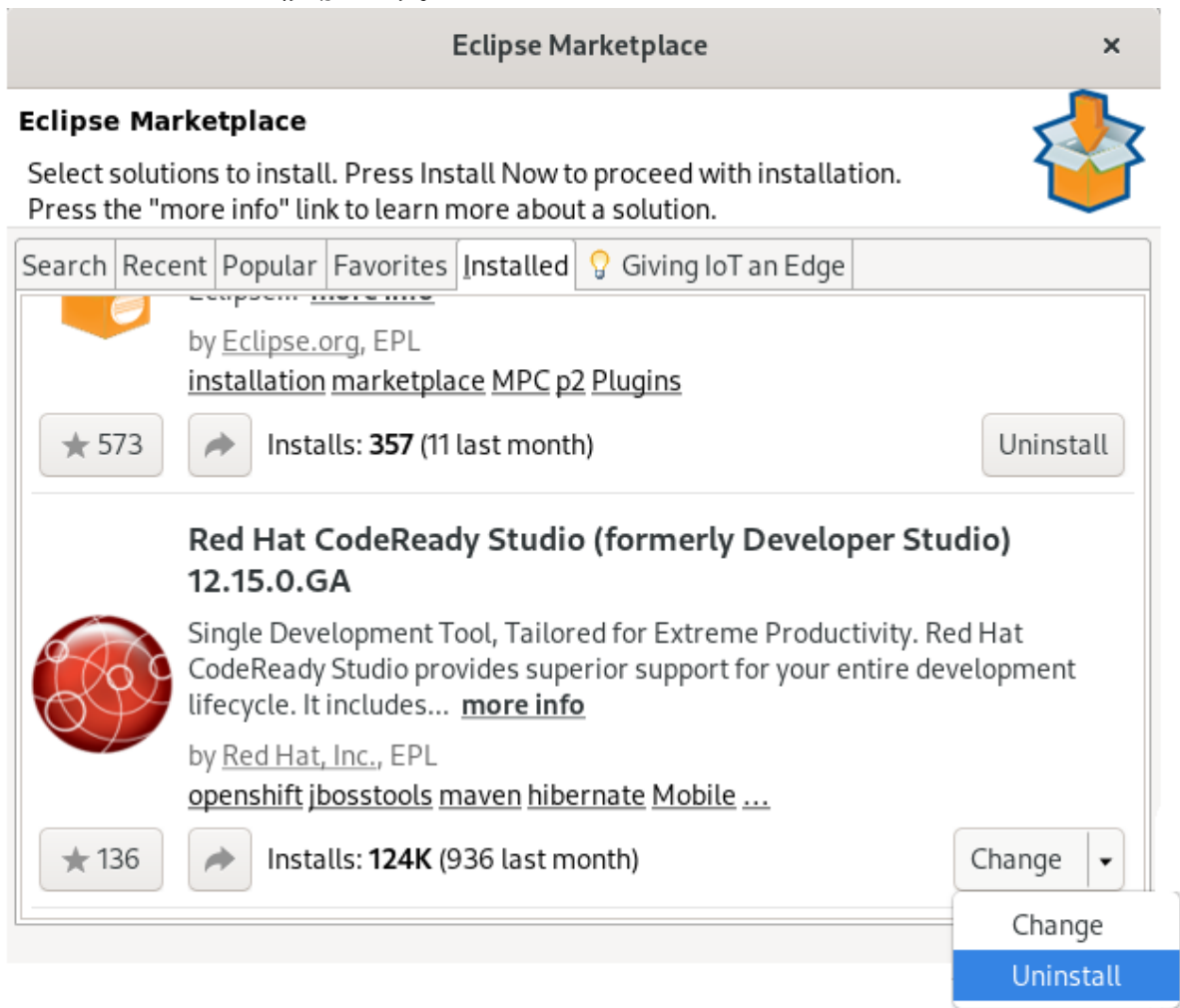
手順

1. Eclipse IDE を起動します。
2. **Help** → **Eclipse Marketplace** をクリックします。

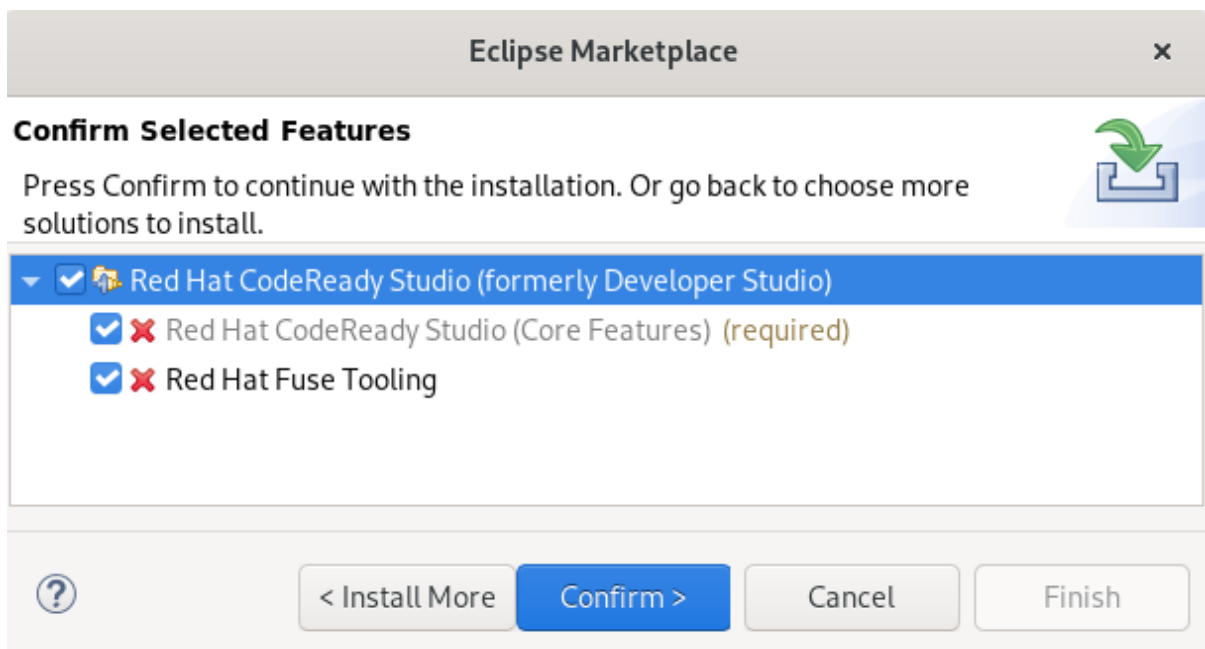


Eclipse Marketplace ウィンドウが表示されます。

3. **Installed** セクションに移動します。



4. **Red Hat CodeReady Studio** を見つけます。
5. **Change** ボタンの近くにある下向き矢印をクリックします。
6. **Uninstall** をクリックします。
Confirm Selected Features ウィンドウが表示されます。



7. **Red Hat CodeReady Studio** が選択されていることを確認します。
8. **Confirm** をクリックします。
9. **Finish** をクリックします。
Software Updates ダイアログボックスが表示され、Eclipse の再起動を要求されます。
10. **Restart Now** をクリックします。
Eclipse を再起動するまで変更は反映されないため、注意してください。

5.2. インストーラーを使用した CODEREADY STUDIO のアンインストール

インストーラーでインストールされた CodeReady Studio をアンインストールする方法を説明します。

手順

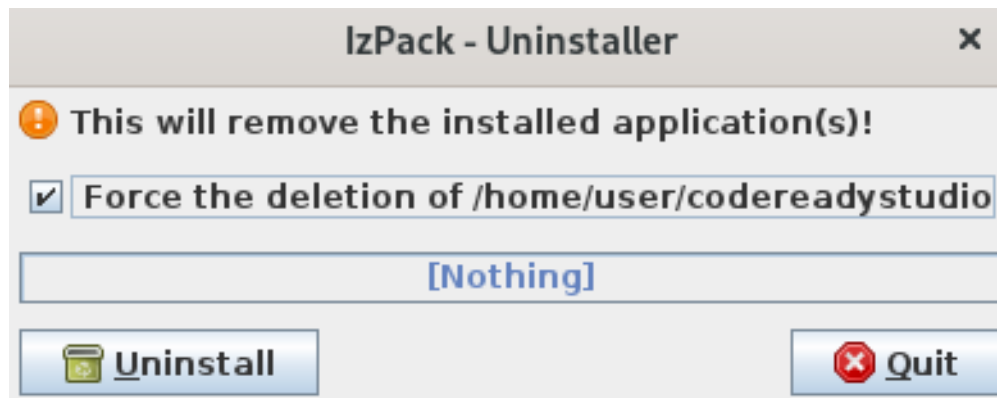
1. CodeReady Studio が実行されていないことを確認します。
2. **/Uninstaller** ディレクトリーに移動します。

```
$ cd /path-to/codereadystudio/Uninstaller
```

3. **path-to** を CodeReady Studio **/codereadystudio/Uninstaller** ディレクトリーへのパスに置き換えます。
4. アンインストーラーを起動します。

```
$ java -jar uninstaller.jar
```

IzPack Uninstaller ダイアログボックスが表示されます。



5. **Force the deletion** チェックボックスを選択します。
このチェックボックスを選択しないと、一部のファイルがインストールディレクトリーに残されます。
6. **Uninstall** をクリックします。

第6章 問題の報告

JIRA でチケットを作成すると、エラーを報告できます。JIRA チケットを作成する場合は、JBDS または JBIDE プロジェクトのいずれかに対して作成してください。エラーをデバッグできるよう、JIRA チケットにできるだけ細かく詳細を記入してください。また、JIRA チケットにエラーログを添付し、問題の内容を提供することもできます。